



多摩市立瓜生小学校  
**瓜生小だより**



学ぶ喜びのある学校

令和6年度11月号  
令和6年11月1日

## 「人との関わり」を大切に

校長 池田 泰章

朝晩めっきり涼しくなってきました。校庭の木々も紅葉し、秋がいよいよ深くなってきました。天候も変わりやすい霜月。体調をくずさないようご注意ください。先日の運動会では、多くの皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。子供たちも、今もっている力を十分に発揮し、よく頑張っていました。

さて、学校教育は、学校だけで進められるものではありません。保護者の皆様や地域の皆様の協力や連携があってこそ大きな成果をあげられるものと考えます。まさに、学校と地域・保護者の皆様が手を携え、一緒になって子供たちのために努力することが求められています。私たち教職員は、学校へ寄せられる思いや願いを常に受け止める姿勢をもち続けるとともに、できる限りそれらの期待に応えられるよう努力していきたいと考えます。これからもより一層、地域や保護者の皆様と心が通い合う、風通しのよい学校づくりを目指します。



### 1. 善悪を大人が分からせる。

子供は、遊びが過ぎて、悪いことをしてしまったり、ついやってしまったりしたことで、人を傷付けるということがあります。学校で起きたことは、学校で指導しています。必要があればご家庭に連絡し、一緒に指導していきます。もしいけないことをしたら、その子に分かるようきちんと指導していくことが大切です。叱る時は、なぜ悪いのか、子供がよく理解できるように話してあげることが必要です。

### 2. 家庭・家族のルールを考えてみる。

学校には、集団生活をきちんとしていくために学校のルール（規則）がありますが、家庭あるいは、家族のルールも必要です。

- ・ 挨拶をする。（おはよう、こんにちは、さようなら、おやすみなさい等）
- ・ 自分で考え、選択させる。（主体性を育てる等）
- ・ お金についての約束をつくる。（価値を教える、ルーズさをなくす等）
- ・ 時間を守る。（けじめをつける等）

### 3. 感謝の気持ちを忘れずにいる。

人は、家族や友達、地域の方々等と関わりながら、習慣の中で生活をしています。関わる人との関係が親密になればなるほど、何かをしてもらった時にやってもらって「当たり前」と感じて、感謝の気持ちを表すことが少なくなってしまう傾向にあります。あらためて「家族や友達、地域の方々等との関わり」について、見直してほしいと考えます。いつもやってもらっている「当たり前」のことを、もうやってもらえなくなったとしたらどうでしょう。そして、その人にどれだけ自分がお世話になっているかを考えることも必要です。

今後、地域・保護者の皆様には、本校の教育活動に対する深いご理解と温かいご協力を心よりお願いいたします。